

「おはなし給食」の実態と効果に関する研究

野内 佳奈

「おはなし給食」とは、絵本・物語の中の料理やその物語を表現した料理を給食に登場させ、食育と読書活動双方の充実を図る活動である。「おはなし給食」の実践は各地で見られるが、実施方法やその効果についての検討はなされていない。そこで本研究では「おはなし給食」の実態と、その読書推進効果・食育効果について明らかにすることを目的とした。

本研究では、まず「おはなし給食」の取り組みについて記載された実践報告・新聞記事 40 件から「おはなし給食」を実施したことによる変化や児童・生徒の感想に関する記述 16 件を抽出し、その内容を分類した。分類の結果、読書意欲の高まりと食への関心の高まりのカテゴリが得られた。

次に「おはなし給食」を実施している小中学校の教員・司書・栄養士から 1 名以上を対象に、「おはなし給食」の効果と実施方法について調査を行った。基本的に Google フォームへの回答を依頼し、紙面で回答希望の学校には質問紙を送付した。「おはなし給食」を実践しているさまざまな地域の学校のうち、調査への回答が得られたのは小中学校合わせて 20 校であり、小学校が 9 都道府県から 16 校、中学校が 3 県から 5 校、回答数としては 22 件であった。また、東京都八王子市からは 105 校の回答が得られた。

調査の結果、八王子市以外では「おはなし給食」の効果として題材となった図書の貸出数に増加が見られたが、題材以外の図書の貸出数や学校図書館の来館者数には大きな変化は見られなかった。実施方法では、取り組み実施期間に 8 割以上の学校で学校図書館における題材の展示、約半数で題材の読み聞かせやあらすじ紹介を行っていた。実施における工夫では、全クラスへの移動式書架の配置、放送での読み聞かせなどが挙げられた。八王子市でも取り組みの効果としては八王子市以外と同様、題材となった図書の貸出数の増加が見られたが、題材以外の図書の貸出数や学校図書館の来館者数等に変化は見られなかった。また八王子市では取り組み期間中に 6 割近くの学校で題材の展示、4 割の学校で題材の読み聞かせ、約 2 割の学校であらすじ紹介を行っていた。八王子市以外と八王子市のどちらも題材の展示、読み聞かせ、あらすじ紹介の順で実施校が多かった。八王子市の実施における工夫では、放送や映像での読み聞かせの実施、栄養士との協力が多く挙げられた。

八王子市で「おはなし給食」が広まった経緯を明らかにするため、追加調査として八王子市学校給食課の職員にインタビュー調査を行った。元々市内の 1 校が行っていた取り組みを教育委員会が市内の学校に広めるため、実施日・献立を通知し、2016 年に全小学校で「おはなし給食」を一気に実施し、翌年中学校にも広めたということであった。

今後は実施の記録や児童・生徒に感想や改善点を尋ねる調査を行うことで、より良い取り組みにしていくことができるのではないかと考えられる。

(指導教員 鈴木佳苗)